

V. 特記事項

1 大学院設置構想

国連サミットにおいて採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030 アジェンダ」では、誰一人として取り残さないための、質の高い保健医療へのアクセスを達成することが求められている。一方、人口減少・超高齢社会を迎えた我が国においては、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築が重要とされている。地域の関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築する取り組みを推進するために、Inter Professional Work（IPW：多専門職間連携協働）に取り組める医療専門職の能力開発と卒後の継続的教育がその重要性を増している。

このような中で、本学では保健科学部と看護学部により多職種連携教育に取り組んでおり、構想している大学院においては、地域の健康に関する課題を的確にとらえ、科学的かつ包括的に分析し対応できる高度な専門職医療人及び専門職教育者を養成するとともに、保健医療福祉システムを学際的な視点から地域に貢献できる人材を育成することを目指している。

2 他大学との連携

平成28（2016）年度より長野県内大学単位互換に関する協定に基づき、単位互換履修生の募集を開始している。しかし、本学の開設科目を互換する基準が明確になっているとは言い難い。新入学生に対しては大学、高等専門学校などで習得した単位を本学の開設科目に認定する制度を実施している。

今後は信州コンソーシアムで取得した単位に加えて、放送大学で取得した単位も卒業認定に必要な単位として認めるように、規則の整備を進めていく。

3 新型コロナウイルス感染症対策

本学では、新型コロナウイルス感染症対策にあたり、授業体制や学生、教職員、施設内の消毒など、対応を決定し実施してきた。先が見えない中、遠隔授業の実施を作業チームが検討、実施してきた。2018年入学生から学生全員にタブレットPCを配布しているため、遠隔授業導入により更に動画受信に活用されている。

今は新しい生活様式の定着が言われ、本学も新しい授業の在り方を検討していくことになる。医療系職種は、様々な感染リスクの中で業務を遂行する。本学は卒業就職した時に即戦力となれる人材の育成にも力を注いでおり、就職先から評価をいただいている。今回のコロナ禍を勉学のチャンスととらえ、日々人材育成に取り組んでいるところである。